

砂漠のぼうし

作品への思い



大阪は日本においてユニークな雰囲気を持っている。進取の気性に富む大阪人はハイカラ好みであり合理性を尊ぶ。漢才、天下の台所、社交的、自己主張が強い、世話好き…
こんな大阪発値の中に、ヒートアイランド対策の1モデルが日本各都市、さらには世界各都市にまで影響を及ぼすような環境配慮に高い水準を持つ都市のイメージがあってもいい。

現況

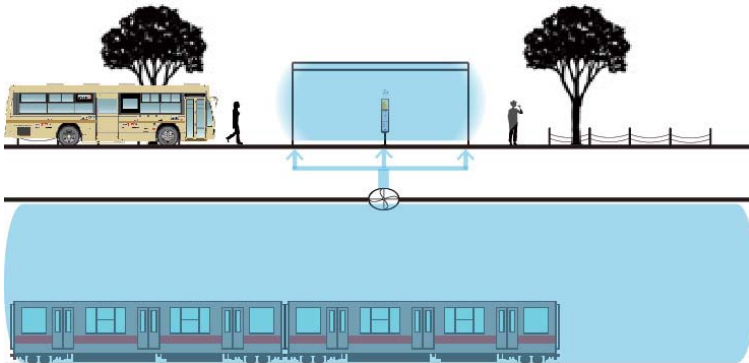
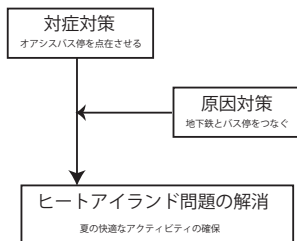
大阪都心部では、西の鞠公園や東に位置する大阪城公園のような大規模緑地に挟まれた場所で、夏場に気温が周囲より高くなるヒートアイランド現象が起こっている。
これでは、外に出る機会が減りまちの魅力を創造できなくなる。
しかし、一方で地下鉄が通るほどの深度をもつ地下空間は、気温が約14°Cで一年中ほぼ一定に保たれている。この地下の冷気量は地上でクールスポットをつくる際、安定して供給できると考えられる。



都市部は公共交通機関である地下鉄や乗合バス路線が網目状に張り巡らされ縦横無尽に移動することが出来る。

提案の方向

ヒートアイランド問題を通して人の一体感、まちの一体感を生み出す。そして、それが街への愛着を生み、持続可能なヒートアイランド対策につながるシステムを構築する。



提案

バス停のオアシス化

(対症対策)



都市にある普遍的要素であるバス停留所は、約400m間隔に設置されており一般的な人が歩くことに抵抗を感じない距離の上限に近い。さらに地下鉄の駅と駅の間にはバス停は介在し、地下への出入口とバス停をクールスポットと捉えるとスポットどうしの間隔は短くなり、人が地上を歩く動線上に程よい間隔でオアシスが現れる。



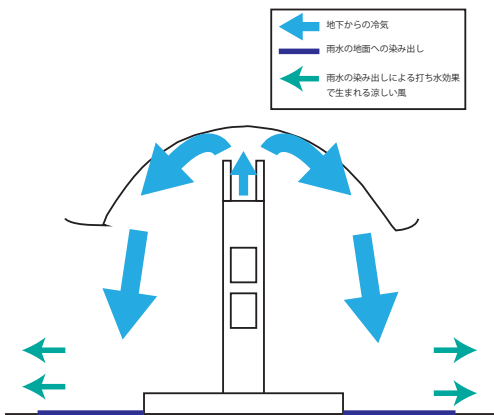
- 地下鉄長堀鶴見緑地線
- 地下鉄谷町線
- 地下鉄堺筋線
- 地下鉄御堂筋線
- 地下鉄千日前線
- 阪神なんば線
- 地下鉄中央線
- 近鉄難波線
- バス停留所
- 地下鉄駅

●オアシス停留所

地下から排出される冷気により、上屋内は冷気のカーテンで覆われる。車道とも隔たりが生まれるので車道の側でも熱風を感じないで済む。

冷気のカーテンは人の通行の妨げにならず歩道のアクティビティを確保できるクールスポットとなる。

さらに周りに張り巡らされた水の打ち水効果で、バス停を中心として放射状に風を生み出し冷気を二重に保持できる。



上屋は従来より大きく広がり丸みを帯び、雨水を集めるために上屋の沿周には傾斜がついている。さらに上屋の縁の表面には人の目線に入らない位置に太陽光発電パネルが貼り付けられており、昼間の発電により地下からの冷気を汲み上げるファンを回す。

停留所内の中心にある直方体のバス標識の上部からは上屋の中央部に向けて地下の冷気を噴出する排出口があり、上屋の内側に当たった冷気は放射状に地面に向けて降り注ぎ、バス停内を冷気で覆う。

バス標識はバス停内に冷気を排出する役割だけでなく、雨水を貯めるタンクの役割も担っている。貯められた雨水はバス標識の側面からしみ流れだし、親水性のあるプールに溜められる。さらに溜められた水はバス停周辺に張り巡らされた細かい溝に流され、表面に染み出すことで打ち水効果が得られる。

地下鉄とバスとの連携

(原因対策)

バス利用者数は昭和40年代前半をピークに減少傾向にある。地下鉄の地上出入口からバス停をつなぐことでバスの利用あるいは徒歩でまちを行き来することを促進させる。『オムニバス構想』のようにバス利用を増加させると交通渋滞、大気汚染といった都市における諸問題を解決し、豊かで快適な地域を実現できると共にヒートアイランド現象抑制につながる。



○快適な地上空間

地下鉄の各駅の入出口やバス停留場でオアシス停留場をモチーフにした帽子をレンタルすることができる。回収も各駅、停留場で行えるので、大阪の外に出かける際は日傘も持たずに手軽に出かけることが可能である。地下鉄の1駅区間のすきまにバス停が砂漠のオアシスのように存在することで、大阪のまちを快適にかつ歩ることができる。

○まちへの景観意識

地下鉄とバスをつなぐ役割を果たすツールが、今回は帽子だがこれ以外にも様々なツールが考えられ期待できる。(ex. うちわ、タオル、割引専用定期など) さらに、この様なツールに広告スペースを設けることで、バス停の広告塔の代わりに果たし、美観誘導が行われるまちに適用させることも考えられる。

○世代を問わない

最近では高齢者が都市部に居住することが増えている。通勤者、通学者だけでなく、年配の方も公共交通の利用を快適に行え、程よい休憩所も点在することで、暑い夏でも様々な人達が行き交う活気ある都市になる。「帽子を被ると10歳若くなる」といわれるように楽しくひとの魅力アップさせる効果もある。

○まちの一体感、にぎわいの創出

日本の夏の、暑さ対策にノーネクタイでクールビズといった取り組みがあるように、大阪の夏には緑の帽子を被った人々が現れる。異様な光景に見えるかもしれないが、流行となると人の気も変わる